

I 山行リーダーの山行実施に際しての届け出実務

- 1 「支部山行届」 山行実施が確定次第支部長、副支部長、山行委員、山行係にメールリングリストを利用して参加者数、参加者名を報告する。山行係とは、当該年度に山行計画を実施する担当者（山行リーダー）をいう。
- 2 「公的登山届」をオンライン登山届（以下コンパスという）で行う場合は、支部長、副支部長、山行委員を緊急連絡先に指定することにより、上記 1 の山行届に代えることができる。支部長、副支部長、山行委員が揃って参加する山行の場合は、山行係複数名を緊急連絡先に指定する。
- 3 コンパスで登山届を提出した場合は、山行終了後コンパスで下山届を提出することができる。
- 4 コンパスで登山届を提出しない場合は、当該地域の所轄警察署に登山届を提出する。この場合、前日までに山行委員へメールもしくは電話で報告する。
- 5 コンパスで登山届を提出しない場合は、下山届をメールもしくは電話で支部長、副支部長、山行委員へ報告する。
- 6 山行中に事故、ヒヤリハットその他の特記事項が発生した場合は、電話やメールで支部長、副支部長、山行委員、山行係へ報告する。
- 7 山行リーダーは、山行終了後速やかに山行報告書を作成し、会報係へ送付しなければならない。なお、必要に応じて、山行実施前に山行報告書作成者、写真撮影者を指名して、指定期日までに会報係への送付を委嘱することができる。
- 8 記念写真をホームページに掲載希望するときは、WEB サイト係に連絡の上データを送付する。

※必要な届：

支部山行届：山行実施前に支部長、副支部長、山行委員にメールまたはコンパスで山行実施の報告をする。コンパス利用の場合は登山届と下山届がセットになっている。

公的登山届：書面又はメール、コンパスで公的機関に提出する届

下山届：支部長、副支部長、山行委員にコンパス又はメールもしくは電話で報告

山行報告書：山行終了後速やかに作成し会報係に送付し、支部ニュースに掲載する報告書

Ⅱ 山行リーダー、サブリーダーの役割

- 1 山行リーダーは、自ら山行計画の行程管理者として、参加者を募集し、山行に同行して安全に目的達成を目指す役割を担う。
- 2 山行リーダーは、難易度、参加者人数にかかわらず状況に応じてサブリーダーを配置するよう心掛ける。
- 3 山行リーダーに事故あるときは、サブリーダーが山行リーダーとなる。
- 4 山行リーダー及びサブリーダーは、協力して参加者の安全を確保し、事故を未然に防止することに努め、自らを含め参加者をリスクから守ることを旨とする。
- 5 山行リーダーは、サブリーダーに山行実施前に山行計画を説明し、情報を共有するよう努める。
(登山口でサブリーダーを指名するようなことはあってはならない。)
- 6 山行リーダーは、状況に応じてメンバーやコースに特に注意すべき事項があるときは、サブリーダーに事前に具体的に指示して安全確保に留意するものとする。
- 7 サブリーダーの選任は、山行リーダーの役目だが、山行委員または会員は山行リーダーの要請に応じサブリーダー指名に協力する。

Ⅲ 山行リーダー・サブリーダーの心得（山行行動中）

- 山行リーダー・サブリーダーは、下山完了まで参加者の安全確保を最重要事項として計画し、行動しなければならない。
- 山行リーダー・サブリーダーは、緊急連絡先名簿を携行する。山行開始前に参加者名簿を参加者全員に配布するとともに、チームとして行動する意味の理解を求める。
- サブリーダーは、山行リーダーに事故あるときは何時でも山行リーダーを引き受ける立場であることを理解して、山行リーダーとの綿密な打ち合わせが必要。
- サブリーダーは山行リーダーの計画内容を熟知し、山行リーダーとともに参加者の安全を守る。
- 参加者が多く、止むを得ず2班以上の編成にするときは、各班にサブリーダーをおくよう心掛ける。
- 山行リーダー・サブリーダーは、山行中の参加者の健康状態に気を配り、適宜に休憩を取るなどして参加者の健康状態に配慮しなければならない。
- 山行中、参加者が山行リーダー・サブリーダーに心安く自分の体調等の状態を申し出ができるよう配慮する。
- 当日の参加者中の最も足の弱い者を基準に、適宜順番を入れ替えるなど配慮する。
- 参加者の当日の体調や変化を観察する。注意項目：疲労、つまずき、遅れ、体調悪化など。高山では初心者は高山病の予兆に気が付かないことがあるので注意が必要。
- 参加者をばらばらに歩かせない。遅れている参加者を一人にしない。
- 隊列を延び過ぎさせない。最後尾のサブリーダーの声が先頭に通じる距離を越えないよう常に配慮する。
- 参加者が体調不良、その他の健康上の事由により止むを得ず途中下山が必要になった場合は、原則としてサブリーダーが安全な場所まで同行する。
- 隊列が長くなり、最後尾の歩行者が5分以上遅れて休憩中の隊列に追いついたとき、間を置かず先頭部隊が出発開始するという場面を見かけるが、山行リーダー・サブリーダーは後続グループの休憩時間の配慮も必要。
- 狭隘な登山路での登山者同士の道の譲り合いのマナー、ストックの持ち方、使い方、山行行動中の手袋着用、下山開始時の靴紐点検など、山行時の日常的な行動ルールの教育徹底。
- 細く急峻な登山路の登下降については、滑落などによる二重遭難の可能性も考慮し、登山者の間隔を調整する等の配慮が必要。
- 岩場や急斜面の登降に際しては、山行リーダー、サブリーダーともに全員登下降完了するまで見守りサポートを行う。
- 天候急変、登山路の崩壊、参加者の健康状態変化等現地において想定外の状況が発生した場合は、登頂を最優先にすることなく、安全確保を前提に計画変更を躊躇しない。参加者には事情を説明するなどして理解を求める。
- 山行に同行した参加者の中に、当日の山行の難易度選択が不適合とみられる者があると認めた場合は、山行終了後同人に対してその行動に照らして難易度判断が不適合ではなかったかと示唆を与え、今後体力、脚力などの強化、当面の適合する難易度レベルを示唆するなどのアドバイスを行うこともリーダーの役目である。この場合、本人のみに率直にわかりやすく伝えることが重要である。

IV 参加者心得

ボランティア活動として行われる当支部の山行は、安全山行を最大責務と考えています。「山行の安全は参加者全員で守る」というのが当支部のモットーです。以下の事項はすべて安全確保に繋がる山行活動の常識として身につけて下さい。

1 山行参加前の準備

- (1) 山行参加の判断に際しては、山行計画書をよく読み、難易度表も参考に、自ら地形図、山岳アプリや目的地に関する先行経験者の情報、目的地情報がわかるホームページ、支部ニュースの過去記録などにより詳しく調査して慎重に判断してください。不明のことは、係（山行リーダー）に質問してください。「登りたい山と登れる山は違う」ことを認識して、自身の力量にあった計画を選択して下さい。
- (2) 山行は、非日常の世界に入っていくチーム活動であることであることを理解して下さい。山行携行品の判断はそれが基準となります。個人の山行携行品は、軽量を旨としますが、日頃まとめて点検・管理し、漏れの無いように心がけましょう。
- (3) 山地では、天候急変や想定外の下山時刻の遅れはつきものです。横風や吹き上がる風にも強い完全防水の雨具や、下山時刻の遅れに備えて灯具（ヘッドランプ）は常時携行してください。
- (4) 個人の日常的な服用薬、健康保険証等の携行に注意するとともに、軽微な怪我などに対応できる薬剤・三角巾、細紐等は各自が携行して下さい。最近は熊鈴なども必携品になりました。

2 集合：解散

- (1) 緊急不参加時は、できるだけ前日夕方迄に山行リーダーに連絡して下さい。出発前に自身の体調をチェックし、不安があればドタキャンを遠慮することなく電話やメールで山行リーダーに申し出て下さい。
- (2) 山行当日は、指定集合場所へ5分位前に到着してください。指定集合場所でなく登山口へ直接向かう場合や、途中から合流する等の場合も、事前に山行リーダーに連絡して下さい。
- (3) 山行直前であろうと、山行中であろうと、体調に異変を感じたときは、直ちに山行リーダーに申し出て適切な対応を取ることを躊躇しないでください。頭痛などは自分では気が付かない高山病の兆候の場合もあります。
- (4) 下山口へ到達しても、山行リーダーから解散の挨拶があるまでは山行活動中です。勝手に離脱しないで下さい。人員数、事故等の確認、その他の連絡事項があります。

3 山行中の注意

- (1) 山行行動中は山行リーダーの指示・注意事項を守って下さい。
- (2) 山行リーダーは原則トップを歩きます。参加者はラストを歩くサブリーダーとの間を歩くことを厳守して下さい。
- (3) 靴紐がほどけたり、トイレ利用で列から離れるときは、必ず山行リーダーに申し出て、指示に従って下さい。下山開始前には特に靴紐の見直しをして下さい。

- (4) 山行行動中は、寒暖にかかわらず危険防止のため、手袋を着用しましょう。
- (5) 休憩時は、出発1分前には支度を終えて下さい。
- (6) 休憩後の出発時には、必ず身の回りを点検し、ゴミの処理・忘れ物のチェックをして下さい。
山行中のゴミは必ず自宅まで持ち帰りましょう。
- (7) 急なアップダウンを通過するときは枯木、小枝、小木、草などに無造作につかまるのは大変危険です。よく見極めて行動して下さい。
- (8) 急傾斜地や岩場の登下降では、互いに適度な間隔を開けて行動し、二重遭難による加害者や被害者になる危険を防ぎましょう。
- (9) 岩場では3点確保を守って下さい。不安があるときは山行リーダー・サブリーダー、同行者にサポートを申し出て下さい。
- (10) ストックは、後続者の迷惑にならないよう注意してください。水平に持って歩行しないで下さい。本人が気が付かないときは、周囲が遠慮なく注意しましょう。
- (11) 山行中の事故の三大要因は、道迷い、滑落、転倒といわれます。原因は疲労による筋力、判断力、集中力の低下です。(警察庁令和3年山岳遭難の概況より。)
- (12) 自分の疲労度を感じ取れるように訓練してください。軽いつまずき、滑りなどは疲労が原因であることが多いです。
- (13) 細い登山路で対向者とすれ違う時は、安全な場所を見極め山側に位置して対向者をやり過ごしてください。
- (14) 写真を撮る際は、必ず足元や周囲をよく見て、安全を確認して行動してください。転落・転倒原因の上位に写真撮影に絡む事故の報告が少なからずあります。

4 ワーグループから離れてしまった場合

- (1) 記憶が確かであれば来た道を引き返すことも必要ですが、不確かな場合は、そこを移動せず携帯電話などで山行リーダーやグループの仲間に通報するなどして救助を要請することも必要です。
- (2) その場所が通信不能の場合は、そこを移動せず救助を待ってください。決して動き回らないようにしてください。そのような場合に備えてスマホの充電器、電灯、笛などは常時携行品に加えてください。ツエルトなどもあれば万一の場合役に立ちます。
- (3) 街中のハイキング等において、途中でグループを離脱した場合は、携帯電話等で直に山行リーダーへ連絡して下さい。

○高齢者の事故が多くなっています。その多くの原因は疲労によるものと言われています。日頃から健康に留意し安全重視で山行を楽しみましょう。